

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870102336
法人名	医療法人ビハーク
事業所名	グループホーム ルンビニー
所在地	松山市安城寺町530番地1
自己評価作成日	平成24年10月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

◎夜間入浴をしているため、日中の関わりや外出の時間が作れる。
 ◎希望に添った支援(入浴したい日に入る・買い物に行きたいときに行くなど)
 ◎地域の方に助けってもらったり助けられる部分は参加して協力している。
 ◎生活の延長線上での看取りをおこなっている。(死後の入浴支援)
 ◎介護甲子園にエントリーし、一次予選を突破し二次予選で惜しくも決勝進出ならずとなった。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年10月19日

●昨年から、「職員の意識統一やチームワークを作る取り組み」として、職員個別に、リーダーと面談する機会を定期的、又、必要時に持つようにされている。面談前には、事業所独自のシートで、職員が自分自身の勤務態度や気持ち等を点検して、面談時に、リーダーの評価と照らし合わせ「意識のずれ」を調整できるよう話し合われている。介護職員は、今年「介護甲子園」にエントリーされ、一次の書類選考を通過し、二次のムービー選考は、「その人らしい最期であるために私達だからできること。命の火が消えるまで一緒に笑って生きよう」等の言葉とともに、利用者の生活の写真を用いて作成された。最終選考に残ることは難しかったようだが、管理者は「行なっていることを評価してくれるのは職員の励みになる」と感じられて、継続して参加することを考えておられる。本大会には、管理者のほか、リーダー2人、職員1人で見学に行く予定である。先月からはスタッフの提案により、両ユニットの交流を図るため、合同のお茶会を行なっておられる。みんなで集まり、たこ焼きやおやつを作る等されており、いつもと違う雰囲気やかかわりに、利用者は喜ばれているようだ。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ルンビニー

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)
氏名 五藤 恵

評価完了日 24年 10月 1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ◎BS法を取り入れ職員全員の意見をとりまとめ、フロアごとの理念を作成し、掲示している。 今年職員の異動があり、フロアリーダーが変わったこともあり、10月に行動指針作りを行う予定である。	
			(外部評価) 事業所では、「一人ひとりの思いをくみ取って生活を豊かに」「人として当たり前の関わりを支援」と理念をつくり、理念をもとに作成した「職員の行動指針」とともに、玄関や事務室に掲示されている。管理者は、職員の気になる行動がみられた際には、行動指針に照らせ合わせながら話し合うようにされている。又、カンファレンス時にも職員で点検する機会を作っておられる。1階ユニットでは、リーダーが替わったことを機に、11月に新たな行動指針を作成する予定となっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ◎近くにコンビニがあり、入居者と一緒買い物に行き、なじみの関係づくりが築けている。又、散歩に出かけたときなどは地域の方とあいさつをし交流を図っている。 ◎2年前から夏まつりを通して、地域の方との距離が近くなった。 ◎近隣の方がお花を摘んで持って来て下さるので、お茶を飲んで一緒に時間を過ごしている。	
			(外部評価) 日頃の散歩であいさつしたり、おしゃべりする中で、親しくなった近所の方も多。又、平成22年から、毎年事業所で夏祭りを開催されており、職員は、案内状にバザー券を添えて、近所のお宅を1軒1軒回り案内され、今年は、ご家族を含め50名ほどが参加されて、ともに地元歌手のショーや職員の踊り等を楽しまれた。事業所は、町内会に加入されており、地方祭時には、神輿が事業所に来てくれている。管理者は、近所の方達に気軽に来もらえるように、将来は、事業所の庭に「昭和の時代を感じるような建物を造り、利用者手作りの甘酒等をお出しするサロンのような場所を作りたい」と夢を話して下さった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ◎看護学生・日赤の看護師の実習を受け入れている。 ◎運営推進会議では、認知症についての勉強会をし、認知症の正しい知識を得てもらっている。 ◎地域フォーラムを開催し地域の方にも認知症について知ってもらっている。 ◎紙芝居を作成したり、歌を作成し 認知症の理解に力をいれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			◎運営推進会議のメンバーが地域との繋がりのきっかけ作りをして頂き、行事に参加出来ている。 ◎メンバーに家族OBでありボランティアでもあるKさんに参加してもらい始め、良いアドバイスをいただいている。 ◎他のグループホームの運営推進会議にも参加させてもらい地域との関わりを深める為の情報交換を行っている。 ◎現在防災マップ作り中。	
			(外部評価)	
			会議は、利用者、ご家族、地域の班長、民生委員、公民館長、元利用者ご家族等が参加されており、事業所から利用者の状況等を報告して、「認知症」「回想法」について一緒に勉強されたり「地震対策」や「防災マップ作成」について話し合い、事業所の取組みに活かしておられる。会議を重ねることで、参加者との関係も深まり「事業所が取り組んでいることや認知症についてよくわかった」と感想もいただいている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価)	
			◎地域のマップ作りに協力していただいている。 ◎事業所が相談をすると真剣に関わっていただき、良い方向へ導いていただいた。	
			(外部評価)	
			運営推進会議時、市の担当者の方に、防災マップ作り等についてアドバイスをいただき、取組みに活かしておられる。地域包括支援センター主催の「地域密着サービス会議」時には、同業者と交流されており、支援困難な事例について勉強会を行ったり、外部研修の情報も得られ、管理者は、「やる気アップ、スキルアップにつながる」と話しておられた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			◎法人内の研修を行い正しく理解することが出来た。又、スタッフ全員拘束しないケアに努めている。	
			(外部評価)	
			管理者は、「身体拘束はもとより、言葉の拘束を行わないよう」に、日頃から職員に指導しておられる。調査訪問時、利用者は玄関から自由に外に出られ、庭を散歩されたり、落ち葉拾いをされていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ◎法人内の勉強会を活かし、虐待防止に努めている。 ◎言葉に関して?と思った事はカンファレンスで話し合い、意識づけしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ◎勉強会を行い、その時は分かっているもすべてを把握していても忘れていくことが多い。実際に成年後見制度を利用されている方がいらっしゃるため、事例を通して学んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ◎契約時、解約時には、時間をかけて説明を行い、納得していただいている。不安や疑問に関してはその都度説明し理解していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ◎自分の気持ちを表出できる利用者には外部へ表せる機会を設けるよう努力している。自分の思いを表出できない方に対しては、表情やしぐさから思いを汲み取るよう、努力している。 ◎日頃からご家族との関わりを大切に人間関係作りに努めている。又、何でも言いやすい環境作りにも気を配っている。 ◎家族会では大勢のご家族の参加があり、お一人ずつ意見を伝えてもらい、運営に繋げている。 (外部評価) 家族会は、年2回開催されており、成年後見人の方も参加されている。家族会時にはご家族のみで話す時間を作っておられ、管理者は「意見や要望を出して下さるのがありがたい」ことをご家族に伝えておられる。ご家族からは「面会簿を作ってほしい」「洗濯物の間違いがある」「外出行事に参加できるかもしれないので声をかけてほしい」等の声があり、「面会簿」を作ったり、利用者個々の衣類の名前を確認して書き直す等、サービスの点検や改善につなげておられる。又、外出行事の際は、ご家族にも案内して一緒に楽しめるよう取り組まれている。ご家族の来訪時には、介護記録をみてもらいながら、利用者個々の担当者がご本人の状況を報告されており、ご家族からは「利用者の状況がよくわかり安心する」「家族からも気がかりなことや気付きを伝えやすい」等、感想をいただくこともある。又、毎月の便りや事業所のブログで活動等を知らせておられ、楽しみにされているご家族も多い。管理者は「来年の夏祭りは、ご家族も催しに参加できるよう相談しながら計画していきたい」と話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ◎常に柔軟な対応ができるよう勤務の調整に努めている。職員の意見は大切にし反映出来るよう努めている。 ◎リーダーは職員全員と面談を行い意見を聞き管理者に繋げている。管理者はリーダーと面談を行い施設長に意見を繋げている。施設長は管理者と面談を行い代表に繋げている。	
			(外部評価) 昨年、「職員の意識統一やチームワークを作る取り組み」として、職員個別に、リーダーと面談する機会を定期的、又、必要時に持つようにされている。面談前には、事業所独自のシートで、職員が自分自身の勤務態度や気持ち等を点検して、面談時に、リーダーの評価と照らし合わせ「意識のずれ」を調整できるよう話し合われている。介護職員は、今年「介護甲子園」にエントリーされ、一次の書類選考を通過し、二次のムービー選考は、「その人らしい最期であるために私達だからできること。命の火が消えるまで一緒に笑って生きよう」等の言葉とともに、利用者の生活の写真を用いて作成された。最終選考に残ることは難しかったようだが、管理者は「行なっていることを評価してくれるのは職員の励みになる」と感じられて、継続して参加することを考えておられる。本大会には、管理者のほか、リーダー2人、職員1人で見学に行く予定である。先月からはスタッフの提案により、両ユニットの交流を図るため、合同のお茶会を行なっておられる。みんなで集まり、たこ焼きやおやつを作る等されており、いつもと違う雰囲気やかかわりに、利用者は喜ばれているようだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ◎代表者は、度々グループホーム訪れて、スタッフと関わりを大切にし、常に働きやすい環境作りをしている。 ◎スタッフの思いをくみ取って、チャレンジすることを支え見守ってくれている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ◎職場内研修を2ヶ月に一度開催している。又、職場外研修においても参加する機会を設けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) ◎地域フォーラムを開催することでネットワークづくりとなっている。 ◎地域密着サービス事業所連絡会を通して、他事業所で会議を開いたり運営推進会議に参加したりと交流を図りサービスの質の向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ◎ご本人のバックグラウンドを知り理解するよう努力している。 ◎本音や要望が隠されていないか聞き漏らさないよう努めている。 ◎不安になると思われる声掛けはしていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ◎小さな事柄でもご家族に伝え、要望や不安などを引き出すように努力している。要望はケアプランに取り入れている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ◎初回面会時、ご家族の要望を聞き、本人の状況、状態を観察しながら対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ◎共に生活する中で、新しい発見を見落とさず「こんな事もできる」を大切に その部分を一緒にするよう努めている。 ◎スタッフの「気づき」を全員が共有できる世に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ◎行事ごとのお知らせや参加の声掛けなど、ご家族への連絡に努め一緒に時間を過ごす機会を作り、共に支えていく関係づくりを行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ◎ご家族と相談して、働いていた職場を訪ねたり、以前住んでいた家に行き なじみの方とお話したりしている。 ◎オーケストラの指揮をされる息子さんの応援に行った。 ◎本人からの要望は、夢プランとして計画し実行している。 (外部評価) 元職場の仲間が利用者を訪ねて来てくれたことをきっかけに、利用者と職員で元職場に出かけてみられた。利用者は、「ここに来て、することはないんやけど」と話しながらも、懐かしい様子であったようだ。職員は、「いつもと違う言葉が聞けた」ことを喜んでおられた。職員は、「利用者の中には県外の方もおられるので、ゆかりの地や育った所にお連れしたい」とも話されていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ◎入居者同士の人間関係が上手くいくようなセッティングづくりをしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ◎お便りを送らせていただき、メッセージも一緒に送っている。イベントに関してもお誘いしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ◎希望が言える方に対しては「明日する」ではなく「今日する」という考えで、希望を実現できるように支援している。 ◎希望の言えない方に対してもご家族から昔のエピソードを聞いたり生活の中での楽しみを把握し本人本意の生活に繋がられるよう努力している。 (外部評価) 1年前から「回想法」に取り組んでおられる。「懐かしのお話をしよう」というコンセプトで、毎週火曜日に利用者5名が集まり、お菓子等を食べながら自己紹介したり、おしゃべりや歌、紙芝居を楽しみながら昔のことを話しておられる。「修学旅行に行っていない」「パンダが見たい」等、利用者の言葉をキャッチして、ご家族にも声をかけ、王子動物園へ小旅行することを計画しているケースもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ◎アセスメントシートを独自に作成し、ご家族と協力して記入することで、バックグラウンドの把握に努めている。又日頃の会話での情報を把握し情報シートに付け加えている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ◎入居者一人ひとりのケアポイントを挙げ1日をどのように過ごしてもらうか考え支援している。スタッフが連携を持ち変化や気づきを日々の記録に残している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ◎立案シートで、本人や家族の要望を把握し、月1回のカンファレンスで本人の思いを中心にスタッフがアイデアや意見を出し合いケアプランを作成している。 ◎状態に変化があれば、家族との面談を行いプランも変更している。</p> <p>(外部評価) 利用者から暮らし方の希望を聞き取り、利用者のできること等に合わせて介護計画を作成されている。希望をご自分から表しにくい方は、ご家族と話し合ったり、職員の気付き等を考え合わせながら作成されている。「おいしいものが食べたい」「墓参りに行きたい」等、ご本人の「夢プラン」も計画に加え、ご家族の協力を得ながら支援されている。個別のケース記録の最後のページに計画を貼り、職員が計画内容に沿って支援したり、記録できるような仕組みを作っておられる。「ケアプラン」「ケアポイント」の記号を決めて、実践できたか毎日点検して記し、モニタリングされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) ◎ケアプラン#ケアポイントを主とした個別記録の記入方法を実践している。 ◎記録の内容は、本人の言葉が主となっている。又、スタッフのこえかけも「」で記入し、それをしてどのようになったか分かりやすく、次につながる記録になっている。気になる点は赤の波線を引き、評価、次のプランに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ◎その方にとって今何が必要なのか！を気づき、その状態に必要なサービスをそうだし、その方らしい生活が継続出来るように努めている。またデイサービスが隣にある為、行事などがある場合、参加している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) ◎地域の畑のボランティアの方が野菜作りをして下さり収穫の喜びを得る事が出来ている。 ◎近所の方が花を届けに来てくださり、入居者さんとの会話も持て良い関係が築けている。 ◎季節の花を楽しめるようにと、民生委員の方が庭に沢山の菖蒲やグラジオオラス・ダリアを持って来て下さっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ◎かかりつけ医がいる場合は、家族の希望も聞きながら選択出来るようにしている。又、一つの病院だけでなく連携病院や専門病院を受診してもらえるよう支援している。 ◎24時間体制で支援している。	
			(外部評価) 現在、ほとんどの利用者が、母体病院の医師をかかりつけ医とされている。週に1~2回の往診があり、又、歯科や皮膚科も必要時に往診してくれるようになっている。調査訪問時は、母体病院の医師と歯科医が往診に来られていた。又、巻き爪の利用者のつめ切に「フットケア専門店」の方が来てくださっていた。母体病院医師は、必要時には、いつでも往診に応じてくれる体制で、利用者の状態によっては、事業所に泊まり診てくれる場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) ◎毎日情報を伝え連携をとっている。 ◎介護職員と看護職員が気軽に相談できる環境で変化や気づきを共有し、日常生活の健康管理を行い、医療が必要な場合は状態に応じた医療を受けられるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) ◎主治医と相談しながら、早期退院に向けて話し合いを持ち、少しでも早い退院が出来るようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ◎家族面談を行い、本人、ご家族の要望を聞いている。Drとスタッフが協力し、安心して重度化や終末期を迎えられるよう取り組んでいる。又、スタッフ全員で方針を共有し一つのチームとして支援を行っている。 ◎小さな変化であっても、状態が変わった場合には家族面談を行い、今後起こり得ること、出来ることと出来ないことを伝え、理解していただき、ご家族に選択していただき方針を定めている。	
			(外部評価) 事業所では、終末期や看取りについて「特別なものではなく、生活の延長上にあること」と捉えて取り組んでおられ、今までに、22名の利用者を事業所で看取られた。管理者は、ご家族と何度も話し合う機会を作り、利用者の現状や今後の経過を伝えたり、これまでの看取りの経験談を話して、ご家族も心構えができるよう配慮されている。ご家族の中には、何日も事業所に泊まって、一緒に看取られるような方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ◎事業所でAED講習会を実施した。 ◎のどづめ等緊急時の対応を学びたいという意見があり、地域の方も一緒に救急法を学んだ。その直後に、のどづめがあり、ハイムリック法を使い異物を出すことができた。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ◎運営推進会議に地域の方にも参加していただき、以前から気になってはいたが、実施できていなかった地震時の避難訓練を行った。 ◎現在 地域の方の協力も得たり、地域の施設のスタッフとも力を合わせて災害マップ作りを行っている。 (外部評価) 地震想定防災訓練は、運営推進会議の地域メンバーの方達にも参加していただき、みなでロープを持って、実際に避難経路を歩いてみられた。車いすの利用者も参加されたが、地域の避難場所が遠く、管理者は、「もっと近くに、一時避難場所を探さなくてはならない」ことに気付かれた。現在、事業所では、「防災マップ作り」に取り組んでおられ、運営推進会議時、地域の自主防災班の方に参加していただき、避難ルートの説明をしてもらったり、すでにマップを作成している事業所に、マップ作りのコツを教えてもらう等されている。又、緊急連絡網には、運営推進会議の地域のメンバーにも加わってもらえるようお願いして、了承をいただいた。	管理者は、マップ作りに取り組む中で「地域資源を明確にして、災害時には、どこでどのような協力が得られるのか、建物に避難させてもらえるかどうか等、一つひとつ確認していく」必要を感じ、取り組んでいくことを計画されている。さらに「避難場所」や「災害マニュアル」を見直すことも考えておられた。事業所も地域資源の一つとして、今後さらに、事業所の有用性等も活かして、地域との協力体制作りの取り組みを工夫していかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ◎その時の状況や状態を見極めながら自分たちの人生の先輩として言葉かけを行っている。が、慣れによる名前の呼び方や対応が気になる部分もあり、再度見直し、スタッフ全員で注意している。 (外部評価) 職員は、「事業所を一つのマンション」と捉えて、利用者のお部屋に入る時には、「お邪魔するという気持ち」を持って入室し、「ドアはそっと閉める」又、「利用者のペースに合わせて無理強いしない」ことを心がけておられる。玄関のセンサーや利用者の身体状況によって使用するセンサーマットは、入居時にご家族にも説明し、同意を得て使用されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ◎その人に合わせた意志の表出方法を汲み取り、自己決定するのが難しい人には、選択出来る声かけ、場面作りをしている。 ◎「待つ」を心がけているが、反省することもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ◎本人のペースを尊重しながらも、生活のリズムを作れるように支援している。一人ひとりのペースで生活できているかは不明であるが、声かけなどは選択できる声かけにし、本人の希望を引き出せるようにし、その人らしく生活に彩りを付けられるように支援していきたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ◎その日着る洋服も本人に選んでもらっている。 ◎車椅子の方にも見えるよう、洗面台に鏡を付けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ◎月に数回であるが、「たこ焼き」「焼き肉」「手巻き寿司」「流しそうめん」など調理したものを出すのではなく、目の前で一緒に作りながら食事している。調理の音や匂いを感じられ、また自分の好みにできる為、とても好評である。	
			(外部評価) 食事の献立は、主に調理を行う職員が立て、事業所の畑で採れた野菜等を使って食事作りをされている。事業所では「盛り付け」に特に気を配っておられ、茶碗蒸しに、エビのあんかけをかける等、彩りよく食欲を高められるような工夫をされている。利用者は、シメジを割いたり、野菜を切ったり、盛り付けや配膳、洗い物等、できることや得意なことを行えるよう支援されている。野菜や果物等、生で食べる食材は手袋を着けて作業するように決めておられ、感染症予防対策をされている。調査訪問時、職員は、目をつぶって食事する利用者に、「なすですよ」とメニューを伝えたり、声をかけながらゆったりと介助されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の水分量が少ない人に対しては記録をつけ、何が本人にとって好きなのか？嫌いなのか？考えながら支援している。(本人の負担とならないような支援)又、食べられる量に合わせて、足りない分は捕食で補っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ◎毎食後口腔ケアを行い清潔を保っている。義歯の消毒もしている。 ◎自分でされる方にも声かけし、磨き残しなど状態に応じて支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ◎出来るだけ排泄での失敗感をなくす為に、排泄リズムを把握し、さりげない声かけ、誘導にて対応している。 ◎パンツだけがいいと考えるのではなく、その人の負担感を和らげる為に、今使用しているパッド等をあたり前と思わず、その時その時の状態に合わせてその方に合った商品選びにも力を入れている。	
			(外部評価) 職員は、「健康管理表」で利用者の排泄状況を把握し、又、利用者の様子等を観察して、排泄を支援されている。寝ている時間が長い利用者には、起きている状態の時に排泄の声かけを行ない、支援されている。又、紙パンツや布パンツの選択は、利用者ご本人の不安感等も十分考慮して、利用者ご本人に希望を尋ねながら検討されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ◎便秘の原因を探りその方の状態に合わせ、運動を多く取り入れたり、水分や食物繊維を多く摂取したりと支援している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ◎入浴拒否のある方に対して、スタッフ全員がスタッフ間の記録を細かく記入し、失敗例や成功例を共有した。それをする事によって成功例を次に生かす事ができ、今では全員が入浴成功している。 ◎毎日入りたい！と思っている方に関しては毎日入浴してもらっている。	
			(外部評価) 1階ユニットは、利用者の希望により夕方から入浴を支援されており、毎日入浴する方もおられる。2階ユニットは、介護度が重度の方が多く、ご家族とも相談して、急変時に備え、母体病院の診察時間内に入浴できるように支援されている。介助が必要な方も職員が二名で介助して、浴槽で温まれるように支援されており、ゆず湯にされたり、入浴剤を入れることもあり、利用者は喜ばれるようだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ◎夜間不眠だった方は、朝ゆっくり休んでもらったり、昼寝の時間を考えたり、なぜ不眠だったのか職員全体で話し合ったりし、気持ちよく休んでもらえる環境作りをしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ◎服用している薬の名前に関しては、きちんと把握できるよう記入している。目的や副作用については用紙があるが、全員が把握しているとは言えない。全員把握できるよう努めた。 ◎薬の変更があった場合はケアポイントにて状態を意識して記録にもつなげている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ◎その方の楽しみをケアプランに挙げ実施している。又、個別的ストレスの発散も考え、グループホームでの生活が充実した物になるように支援している。 ◎日々の生活の中で気づいた「できること」を一緒にする事で気分転換につながるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ◎一人ひとりのその日の希望に添って戸外に出かけられるような支援に努めている。 ◎日々の会話の中から希望を引きだすよう努めている。 (外部評価) 庭の仏像に毎日手を合わせに外に出られる利用者も多い。利用者から「天気がええけん、どっか連れて行って」と言われることもあり、買い物やドライブ等に出かけておられる。ケーキを食べに喫茶店に出かけたり、スーパーのフードコートへ出かけて、お好きなものを注文して食事することもある。介護度が重度の利用者が多いユニットでは、「毎週日曜日に外出する」ことに決めておられ、法人デイサービスの車を借りて、海を見に行かれたり、個別に墓参りに出かけたりにされている。	管理者は、「今後も利用者の希望する場所へ外出したり、旅行にも行ってみたい」と考えておられ、又、職員は、利用者が「日常の中でも地域行事に参加できるように支援したい」と話しておられた。今後さらに、地域資源と利用者をつなげ、利用者個々が地域の中に出かけていき、暮らしを拓けられるよう、支援に工夫されてはどうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ◎本人希望の方に対してはご家族と相談し了解のもと、現金を持っている。今まで当たり前で持っていたお金がないという不安も考え、希望のある方に対しては出来るだけ持てるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ◎贈り物が届いたときなど、送り主に電話をかけた、手紙を書いたりしていただいている。 ◎よく手紙を出していた方が最近書くことをしなくなっが、一緒に書くところまでには至っていないため努力したい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ◎全てをなくすのではなく、入居者にとって何が必要なのか？必要でないのか考え、あまり施設的にならないように注意している。しかし、見えるところに理念や運営規程や重要事項説明書などの掲示が必要な為家庭的な雰囲気からすると残念な面もある。 ◎季節ごとの飾りつけを入居者さんと一緒に作り季節を感じられるよう努めている。	
			(外部評価) 共用空間は、利用者個々の「居やすさ」を意識して環境作りをされている。居間には、ソファが各所に配されており、利用者それぞれにお気に入りの場所がある。壁には、利用者と職員と一緒に作ったコスモスやブドウの飾りや地域の神社のお札も貼っておられた。利用者がご自分の部屋がわかりやすいように、目印を付けておられたり、利用者によっては、居室入り口の足元に、ビニールテープで利用者ご本人の名前を書いているところもあった。又、トイレの表示は、大きくされていた。天井のエアコンからの風を和らげるように、すだれを付けて対応されていた。畳スペースには、職員が菊の花を飾っておられ、仏壇に手を合わせる利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ◎いろいろな所にソファがあり、入居者同士くつろげたり、個別の空間を持てるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ◎入居前の面談にて、なじみの家具や小物を持ってきていただくように説明しているが、入居者さんによっては馴染みのものが少ない方もいらっしゃる為、今後ご家族と相談しその人らしく居心地良く過ごせる居室作りをしていきたい。 ◎状態によっては、見守りができやすい配置にする場合もある。	
			(外部評価) 鏡台やタンスを持ち込んでおられる方やご家族の写真やぬいぐるみを飾っている方もいる。前回の外部評価を受けて、管理者と職員は、2階ユニットの居室で実際にベッドに寝てみて、利用者が心地よく過ごせているか点検された。2階ユニットは、介護度が重度の利用者が多いユニットで、「介護する職員の動き易さ」も大事な条件であり、利用者により心地よく過ごしていただけるよう、「職員は居室で記録を書く等、利用者により寄り添う時間を増やし、ゆったりとかかわってほしい」と話し合われた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ◎廊下には手すりを付け、居室やトイレなどには入居者の目線で、分かりやすい目印をつけている。	